

# 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- - 平成 1 9 年 6 月調査結果 - -

( 平成 1 9 年 6 月 2 9 日 )

調査期間：平成 1 9 年 6 月 1 8 日 ~ 2 2 日

調査対象：全国の 4 0 7 商工会議所が 2 5 7 9 業種組合などにヒアリング  
( 内訳 ) 建設業 3 7 8 製造業 6 1 8 卸売業 2 3 5  
小売業 7 3 5 サービス業 6 1 3

調査項目：今月の売上・採算・業況などについての状況 ( D I 値を集計 )  
及び、業界として当面する問題など

## D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )  
業況・採算 : ( 好転 ) - ( 悪化 )      売上 : ( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ( <http://www.jcci.or.jp> )でもご覧になれます。

## 【平成19年6月調査結果のポイント】

### 全指標が悪化、業況DIは5カ月ぶり

6月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（25.1）よりマイナス幅が4.4ポイント拡大して29.5となり、5カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

産業別の業況DIは、全ての業種でマイナス幅が拡大した。

景気に関する声、当面する問題としては、受注確保、売上増加、先行き期待という声が寄せられている一方、売上減少、業況低迷、仕入や金利コストの上昇による採算悪化などを訴える声も聞かれる。

【建設業】では、「受注が確保できない。仕入単価上昇の影響で採算面でも引き続き苦しい状況が続いている」（一般工事）「公共工事、民間工事ともに受注が減少している。また、原材料価格も上昇しており、業況は厳しい」（建築工事）「合板の仕入価格が上昇し、経営を圧迫している」（建築工事）と、仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。

【製造業】では、「新規の取引先が増加した」（かばん製造）「設備投資が順調に進んでいる」（金属加工機械製造）との声がある一方、「素材価格の高騰が経営を圧迫している」（金属加工機械製造）「鋼材の価格が上昇している」（自動車・付属品製造）と、仕入コストの上昇を訴える声も寄せられている。

【卸売業】では、「個人消費が伸びない」（各種商品卸売）「中小企業の業況は相変わらず厳しい」（その他の卸売）「売上は増加したものの、採算面では悪化している。先行きは不透明」（食料・飲料卸売）「売上が減少した」（食料・飲料卸売）との声も寄せられている。

【小売業】では、「夏物婦人衣料品がよく売れている。先行きにも期待が持てる」（その他の小売）「来店客数が増加した」（商店街）との声がある一方で、「借入の支払利息が増加したことにより、資金繰りにも影響する」（商店街）「個人消費に力強さを感じられない」（百貨店）との声も寄せられている。

【サービス業】では、「業況の回復が期待できる」（建物サービス）との声がある一方で、「相変わらず来店客数が少ない」（すし店）「売上が減少している。業況は大変厳しい」（その他の一般飲食）「原油価格は値上がり傾向。運輸業界にとっては死活問題」（その他サービス）との声も寄せられている。

売上面では、全産業合計の売上DIは、マイナス幅が1.5ポイント拡大して21.4となり、2カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は小売で縮小したものの、他の4業種で拡大した。

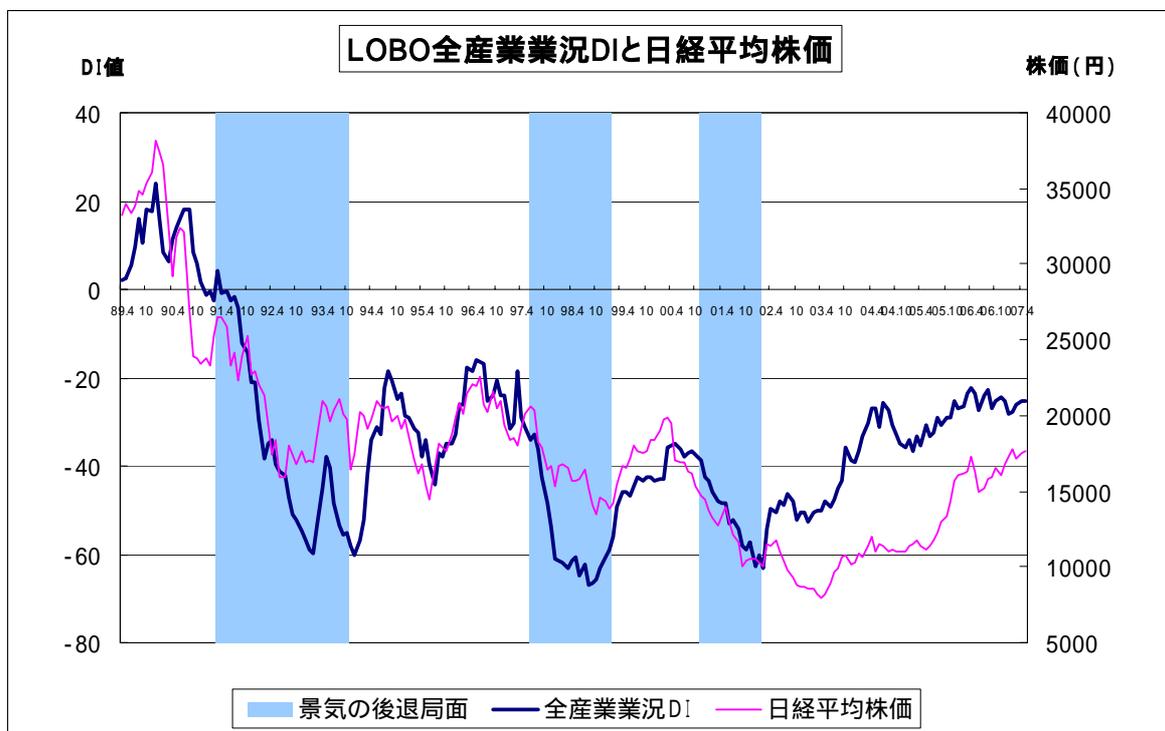
採算面では、全産業合計の採算DIは、マイナス幅が2.3ポイント拡大して27.5となり、2カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は建設で縮小したものの、他の4業種で拡大した。

資金繰り面では、全産業合計の資金繰りDIは、悪化超感が1.6ポイント強まって19.8となり、3カ月ぶりに強まった。産業別にみると、DI値の悪化超感サービスで弱まったものの、他の4業種で強まった。

仕入単価面では、全産業合計の仕入単価D Iは、上昇超感が1.7ポイント強まって30.1となり、4カ月連続で強まった。産業別にみると、D I値の上昇超感はずべての業種で強まった。

従業員面では、全産業合計の従業員D Iは、5カ月ぶりに不足超感から過剰超感に転じた。産業別にみると、D I値は製造で不足超感が強まったものの、小売、サービスで不足超感が弱まり、建設、卸売で過剰超感が強まった。

向こう3カ月(7月～9月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I(今月比ベース)が25.1と、昨年同時期の先行き見通し(22.2)に比べて悪化している。





【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が1.5ポイント拡大して21.4となり、2カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は小売で縮小したものの、他の4業種で拡大した。

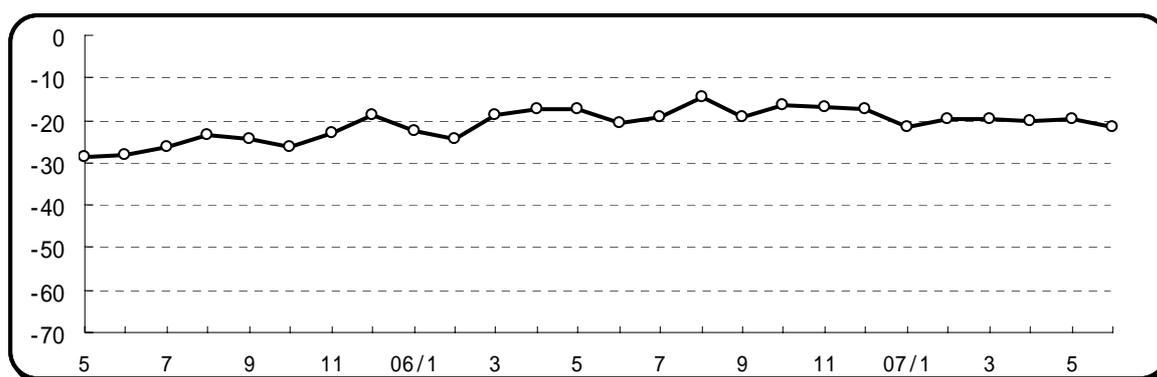
向こう3カ月(7月～9月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が17.1と、昨年同時期の先行き見通し(14.3)に比べて悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、サービスでマイナス幅が縮小しているものの、他の4業種で拡大している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	19年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	21.5	19.7	19.5	20.3	19.9	21.4	17.1 (14.3)
建設	29.7	30.0	35.8	34.8	37.8	37.9	32.5 (28.0)
製造	8.9	0.5	6.5	9.3	9.1	10.7	17.4 (7.3)
卸売	29.4	33.3	34.4	36.3	22.8	30.6	18.9 (18.1)
小売	26.6	26.0	19.7	18.5	20.0	19.7	12.3 (12.1)
サービス	20.0	20.0	16.8	18.1	18.4	20.3	11.4 (14.3)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が2.3ポイント拡大して27.5となり、2カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設で縮小したものの、他の4業種で拡大した。

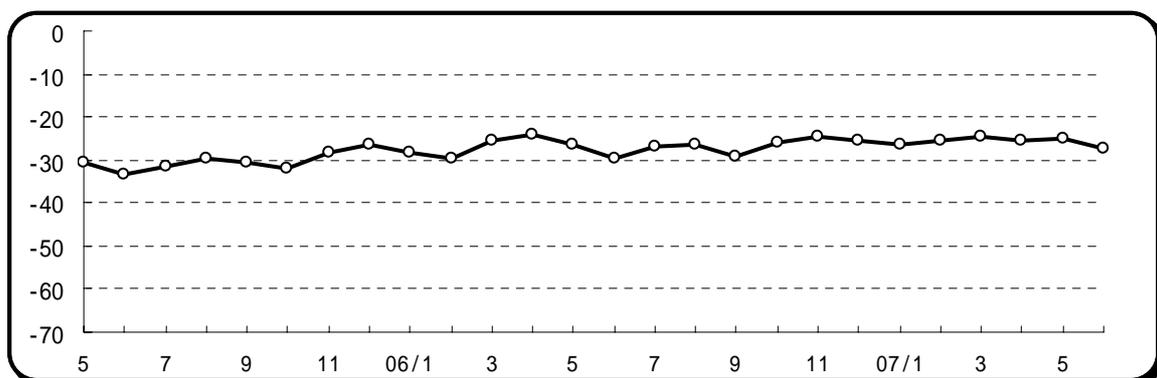
向こう3カ月(7月～9月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が23.4と、昨年同時期の先行き見通し(22.9)に比べて悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、卸売、サービスでマイナス幅が縮小しているものの、他の3業種で拡大している。

採算D I (前年同月比) の推移

	19年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	26.3	25.4	24.7	25.6	25.2	27.5	23.4 ( 22.9)
建設	41.4	36.2	39.9	41.2	45.2	44.3	41.3 ( 39.1)
製造	20.4	16.0	20.9	24.1	24.9	28.6	28.2 ( 21.7)
卸売	31.3	31.4	34.4	32.5	24.1	26.3	18.2 ( 25.6)
小売	24.1	25.4	17.5	19.6	17.8	20.9	16.7 ( 15.5)
サービス	23.6	25.9	24.2	21.2	22.0	23.7	16.5 ( 21.7)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	19年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全産業	19.6	19.5	20.1	18.3	18.2	19.8	18.6 ( 17.8)
建設	30.5	29.6	36.8	27.5	33.6	34.3	35.0 ( 31.0)
製造	14.0	11.1	12.5	13.2	14.9	16.8	17.6 ( 16.0)
卸売	18.5	19.0	18.6	20.4	10.1	18.6	19.6 ( 17.1)
小売	19.6	21.5	17.6	16.0	15.7	16.8	13.8 ( 12.8)
サービス	18.4	19.6	20.8	19.4	16.8	16.1	13.7 ( 17.3)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は悪化超感が3カ月ぶりに強まった。産業別にみると、サービスで悪化超感が弱まったものの、他の4業種で強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化超感が強まる見通し。産業別にみると、サービスで悪化超感が弱まる一方、他の4業種で強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	19年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全産業	21.8	21.0	23.2	25.6	28.4	30.1	28.0 ( 23.2)
建設	34.1	34.1	35.8	39.9	40.7	41.5	34.9 ( 33.2)
製造	40.0	34.8	41.7	41.5	49.4	47.3	42.7 ( 31.2)
卸売	15.0	20.1	25.8	27.6	19.1	26.3	26.4 ( 26.3)
小売	7.5	6.9	10.1	9.4	14.5	15.5	17.0 ( 13.6)
サービス	15.0	15.6	11.5	18.0	19.3	23.5	21.7 ( 18.5)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は上昇超感が4カ月連続で強まった。産業別にみると、製造で上昇超感が弱まる一方、他の4業種で強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇超感が強まる見通し。産業別にみると、すべての業種で強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	19年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	0.2	0.6	0.5	0.6	0.2	0.2	2.8 ( 4.1)
建設	14.7	14.7	16.1	14.1	17.0	17.9	19.8 ( 15.8)
製造	0.0	3.6	1.8	0.2	1.4	2.0	0.6 ( 7.2)
卸売	5.0	6.9	5.3	3.8	1.2	3.1	9.5 ( 6.4)
小売	6.0	5.9	8.5	10.1	6.4	6.0	2.4 (3.9)
サービス	3.4	3.9	1.8	1.4	3.4	2.7	3.2 ( 1.8)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

- 【前年同月比 D I】全産業合計は不足超感から過剰超感に転じた。産業別にみると、製造で不足超感が強まったものの、小売、サービスで不足超感が弱まり、建設、卸売で過剰超感が強まった。
- 【先行き見通し D I】全産業合計は過剰超感が弱まる見通し。産業別にみると、建設、卸売で過剰超感が強まり、小売で不足超感が弱まる一方、製造で過剰超感が弱まり、サービスで不足超感に転じる見通し。

【平成19年6月の景気キーワード】

悪化への懸念

各業種から、業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「収益、資金繰りともに悪化し、業況は非常に厳しい」(米子・一般工事)公共工事が減少し、受注を確保できない。民間工事も請負単価が下落している。業界を取り巻く環境は一段と悪化するだろう」(金沢・建築工事)「引き合いはあるものの、受注につながらない。先行きに不安を感じる」(熊本・その他の製造)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「中小企業は相変わらず厳しい状況が続いている」(鎌倉・その他の卸売)「消費者の購買意欲が減退している」(伊那・商店街)「業績が伸びない」(福岡・スポーツ施設)「景気回復の兆しが一向に見られない」(会津喜多方・理容)と厳しい業況を訴えるコメントが寄せられている。

仕入コスト上昇

また、各業種から、原材料価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「原材料価格が上昇している。業績は悪化する見通し」(名古屋・管工事)「鋳物原材料の値上がりの影響が今後も続くと思われる」(桑名・鉄素形材製造)「ステンレスの価格が上昇している」(秋田・一般産業用機械製造)との声が寄せられている。また、小売、サービスからは、「6月から、油、大豆や基本調味料などの値上げが相次ぐ」(上田・その他の小売)「石油製品や樹脂関係製品の価格が上昇している。売上が伸びない中、仕入価格ばかりが上昇している」(深谷・商店街)「食用油やマヨネーズの価格が上昇している」(札幌・百貨店)といったコメントも寄せられている。

金利負担の増加

さらに、各業種から、金利負担の増加を訴える声が寄せられている。建設、製造、小売から、「顧客の住宅ローン金利の上昇が気がり」(唐津・建築工事)「設備投資は順調に進んでいるが、金利上昇に伴う負担の増加が懸念材料である」(さいたま・金属加工機械製造)「市場金利連動の短期借入れはすでに次回の利上げを織り込み始めており、金利負担は厳しさを増している」(新潟・水産食料品製造)「運転資金の調達が必要だが、金利負担が増加している」(横浜・その他の輸送用機械製造)「利上げにより、企業の金利負担が増加した。一方、預貯金金利の上昇による消費者の購買意欲向上は感じられない」(盛岡・百貨店)といったコメントが寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
19年	4月	景況一進一退	仕入コストの上昇	日銀利上げ後の影響
	5月	回復への動き	仕入コストの上昇	販売価格の低迷
	6月	悪化への懸念	仕入コストの上昇	金利負担の増加

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などについての自由回答をまとめたもの。

本文中の( )内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大、採算D Iは3カ月ぶりに縮小した。「売上は前年同月と比較して増加している」(建築工事)「業況は多少回復傾向にある」(土木工事)との声がある一方、「受注を確保できないため、売上が減少した。仕入価格が上昇傾向にあり、採算の悪化が懸念される」(一般工事)「公共工事が減少し、業況は厳しい。これからが正念場である」(一般工事)「同業者間競争が激化している」(建築工事)といった声も寄せられている。
製 造	業況・採算D Iは4カ月連続、売上D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「初夏、盛夏向けの商品は順調に推移している」(織物製造)「受注を確保できている」(鉄素形材製造)との声がある一方、「ステンレスの価格が上昇している」(金属加工機械製造)「鋼材価格の上昇が続いていることから、採算の悪化が懸念される」(建設建築用金属製造)「得意先からのコストダウンの要求と原材料価格の高騰により、業況は悪化している」(通信機械器具製造)「燃料費や原材料価格が高騰し、収益を圧迫している。受注も減少傾向にある」(陶磁器・同関連製品製造)といった声が寄せられている。
卸 売	業況・売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「売上は順調」(農畜産水産物卸売)との声がある一方、「消費の低迷により、売上が減少した」(衣服・日用品卸売)「中小企業の受注件数は減っている」(鉱物金属材料卸売)「来店客数が減少している。業況は厳しい」(各種商品卸売)「従業員の確保が困難。若年層の定着率が悪く、採用も厳しい状況が続いている」(農畜産水産物卸売)「ガソリンや軽油の値上がりによりコストが増加した。先行きは不透明」(農畜産水産物卸売)といった声が寄せられている。
小 売	業況D Iは2カ月連続、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大、売上D Iは2カ月ぶりに縮小した。「衣料品の売上が回復傾向にある」(その他の小売)「来店客数が増加し、売上が回復した」(商店街)「夏物商戦が好調」(百貨店)との声がある一方、「消費者の購買意欲が減退している」(商店街)「来店客数の減少により、売上が伸び悩んでいる」(商店街)「景気の回復感はない」(商店街)「仕入単価の上昇により、採算が悪化している」(商店街)「衣料品の売上が思うように伸びない。来店客数も減少している」(百貨店)といった声が寄せられている。
サービス	業況D Iは2カ月ぶり、売上D Iは3カ月連続、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「保管貨物の荷動きは順調に推移している」(その他サービス)「客室の稼働率が上昇した。業況は好調」(旅館)との声がある一方、「原油価格の上昇は運輸業界にとって死活問題である」(その他サービス)「景気回復感はない。個人消費が減少している」(食堂・レストラン)「依然として先行きが見えない」(洗濯)「同業者間の競争激化により業況は厳しい」(美容)「宿泊客が減少傾向にある」(旅館)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、東海でマイナス幅が縮小したものの、他の8ブロックで拡大した。なお、全ブロック合計は5カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

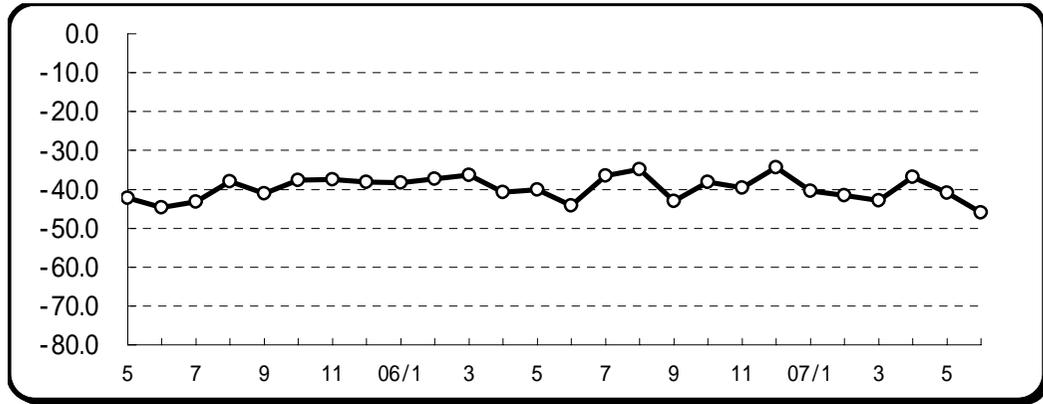
ブロック別の向こう3カ月(7月~9月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、北海道、中国で改善しているものの、他の7ブロックで悪化している。なお、全ブロック合計は悪化している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

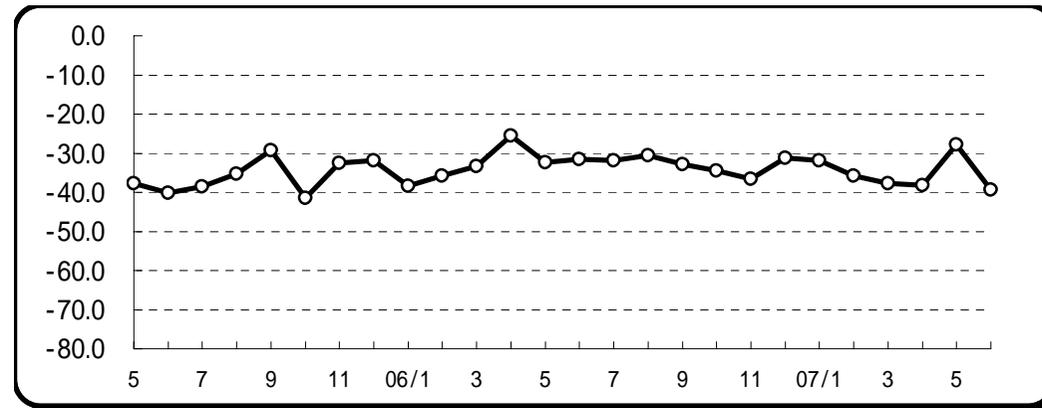
	19年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全 国	28.0	27.8	26.0	25.3	25.1	29.5	25.1 ( 22.2)
北海道	39.8	39.0	41.0	27.4	33.1	33.3	26.4 ( 27.0)
東 北	29.3	36.7	29.2	27.0	28.3	32.1	29.9 ( 25.3)
北陸信越	17.0	14.0	23.7	27.0	27.0	33.9	21.6 ( 15.8)
関 東	25.2	23.4	22.2	20.2	18.5	24.1	20.9 ( 17.0)
東 海	19.0	19.8	17.8	23.5	28.5	24.4	26.6 ( 22.0)
近 畿	33.1	34.2	25.4	24.2	25.1	26.9	26.0 ( 24.4)
中 国	32.1	35.0	28.8	37.2	30.3	35.7	27.8 ( 33.6)
四 国	40.0	33.6	34.0	32.3	29.9	41.5	34.6 ( 33.1)
九 州	25.0	28.6	24.8	22.2	21.3	28.0	21.3 ( 15.6)

# 業況D I（前年同月比）の推移（全国）

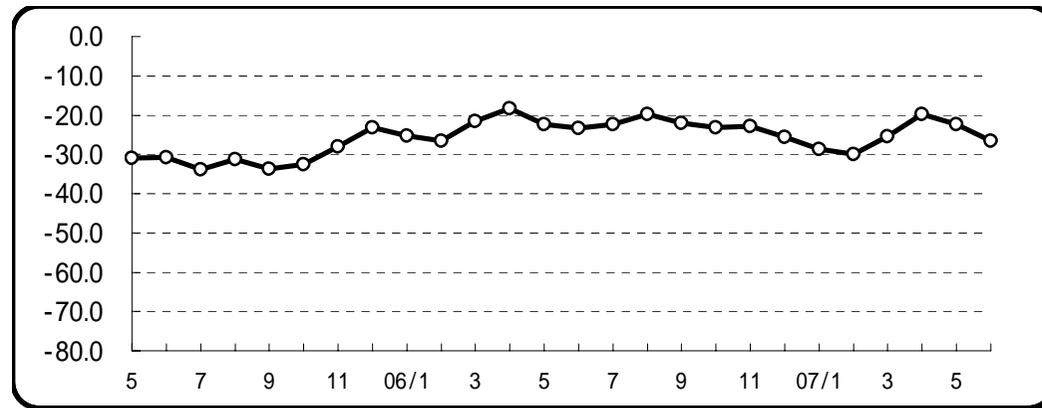
## 建設業



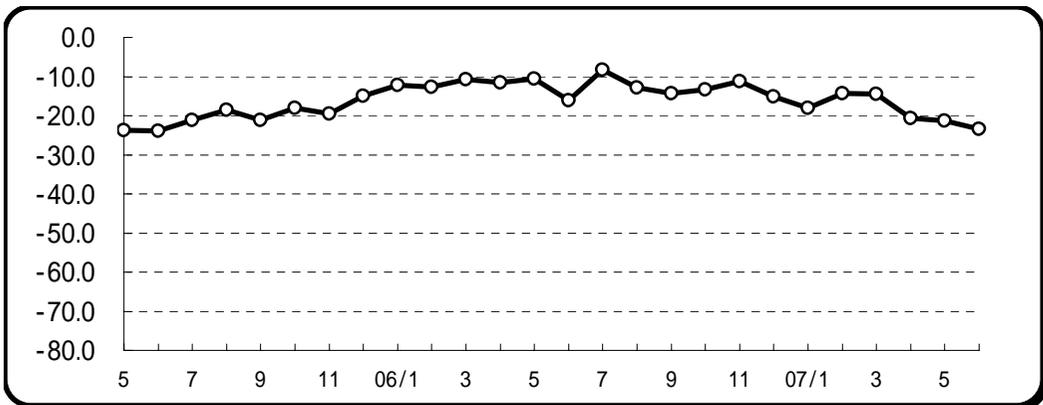
## 卸売業



## 小売業



## 製造業



## サービス業

